

令和2年度

文部科学省科学技術人材育成費補助事業  
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」  
事業期間 平成27年度～令和2年度

事業報告書



国立大学法人 琉球大学  
ジェンダー協働推進室

University of the Ryukyus  
Gender Equality Promotion Office



# 目次

「特色型」事業の終了に寄せて	02
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」事業について	03
数値で見る琉球大学	04

## ダイバーシティ研究環境整備のための取組

研究活動等支援員制度	06
育児サポート・サービス利用料補助事業	07
くるみんマークの取得	07
病児・病後児保育利用料補助事業	08
入試時等における託児室の開設	08
女性教員介護帰省費用補助事業	09
かなさん介護セミナー	10

## 女性研究者の研究力向上のための取組

スキルアップセミナー	12
女性教員短期研究専念制度	13
競争的資金獲得セミナー	13
女性をリーダーとするグループ研究への研究助成	14
英語論文校閲費用補助事業・国際学会派遣費用補助事業	14
インセンティブ経費の配分と女性限定公募	14

## 女性研究者の上位職への積極的登用に向けた取組

琉球大学教員ポスト戦略的再配分（重点改革推進枠）による女性教授限定公募	16
部局長訪問	16
ダイバーシティ推進トップセミナー	16
ダイバーシティ推進セミナー	17
リーダーシップ研修	18

## 裾野拡大、地域・産学官との連携

琉球大学岸本遺贈基金寄附金「女子大学院生対象グローバル人材育成事業」	20
女子中高生理系進路選択支援事業	20
オープンキャンパス「理系女子のための自然科学分野紹介」	21
キャリアデザインフォーラム	21
共通教育科目「キャリアデザインとジェンダー」	22
九州・沖縄アイランド女性研究者支援ネットワーク（Q-wea）の活動	24
沖縄県における女性産学官コンソーシアム	24

## 基金・広報活動

琉球大学特定基金「琉球大学うない女性研究者・リーダー育成基金（うない基金）」	26
情報発信	26

## 資 料

活動報告（平成27年度～令和2年度）	30
アクションプラン	35
一般事業主行動計画	36

## 「特色型」事業の終了に寄せて



ジェンダー協働推進室長 喜納 育江

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」は、平成 27 年から 6 年の長期にわたる事業でした。その下半期の 3 年間で自主経費で継続することとしている点には、上半期の活動をいかに大学の主体的な取組として定着させ、所期計画の目標を達成できるかという本学の「本気度」が問われていたと言えます。

本学では、「女性限定公募」等、新たな人事の方法を導入した効果もあり、女性研究者の採用比率は、各年度目標の 25% を上回って達成しました。在職比率についても目標の 19% を平成 29 年度には達成し、事業終了時の令和 2 年度末には 19.8% にまで高めることができました。一方で、教授職における女性比率を 14.6%、役員の女性比率を 25% へ高めるという「女性の上位職登用」に係る目標については、事業期間内に達成できませんでした。（ちなみに、この厳しい達成状況に、本学は学長のリーダーシップのもと、平成 30 年度から「女性教授限定公募」等の対策を講じました。これにより、令和 3 年 4 月 1 日までに女性教授の在職比率、女性役員の比率ともに若干改善しています。）

このような状況からも、本事業の当初目標が十分に達成されたとは言えません。それでも本学のダイバーシティ推進の意識は、この 6 年間で確実に前進しました。「女性限定公募」を自主的に導入する部局が複数出現し、令和 3 年度には本学の女性研究者の在職率は 2 割を超えました。また、女性の准教授の数が大幅に増加しました。大城肇前学長の時代に着手した本事業は、西田睦学長に引き継がれ、さらなる進展を経て、令和元年の「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）」の採択につながりました。

ダイバーシティ研究環境の実現が大学の未来を左右することは明白です。その意味で、今日の大学組織におけるダイバーシティ推進の意義を深く理解する学長の強力なリーダーシップのもとで本事業を遂行できた本学は幸運でした。この場を借りて、本事業の実施にお力添えとご指導をいただいた学内外の全ての方々に深謝します。

# 「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」事業について

平成 27 年度、琉球大学は文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」に採択されました。

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」事業は、研究環境のダイバーシティを高めると共に優れた研究成果の創出につなげるため、女性研究者のライフイベント及びワーク・ライフ・バランスに配慮した研究環境の整備や女性研究者の研究力向上のための取組、上位職への積極的登用に向けた取組を支援するもので、事業期間は 6 年間です。

琉球大学における本事業の目標と計画は次の通りです。

## 【目標】

1. 女性研究者の採用比率の向上（25%以上）
2. 大学全体の女性研究者の在職比率の向上（19%）
3. 女性研究者の上位職比率の向上（役員 25%、教授職 14.6%）

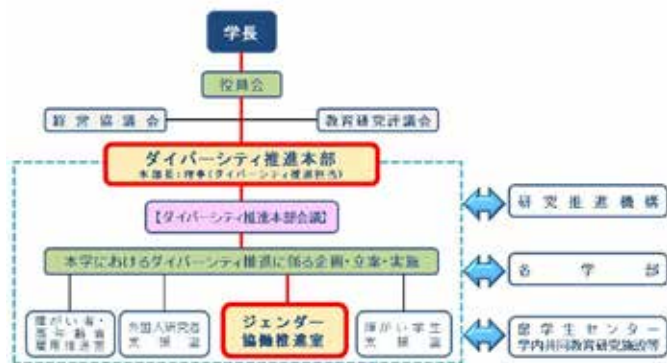
## 【計画】

1. 女性研究者を安定的に確保する人事プロセスの確立
2. 女性研究者の研究活動に対する支援体制の継続
3. 組織運営及び研究プロジェクトを牽引する女性リーダーの育成

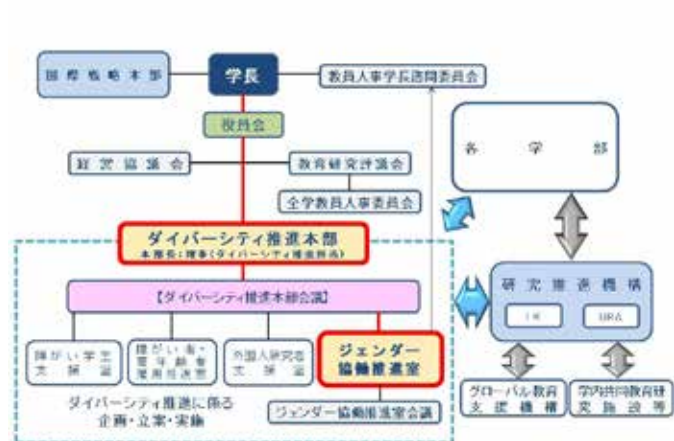
この3つを柱とする行動計画を策定し、支援体制の拡充、人事システム及び人事プロセスを含む大学のマネジメント改革を推進する。

## 【実施体制図】

平成 27 年度～



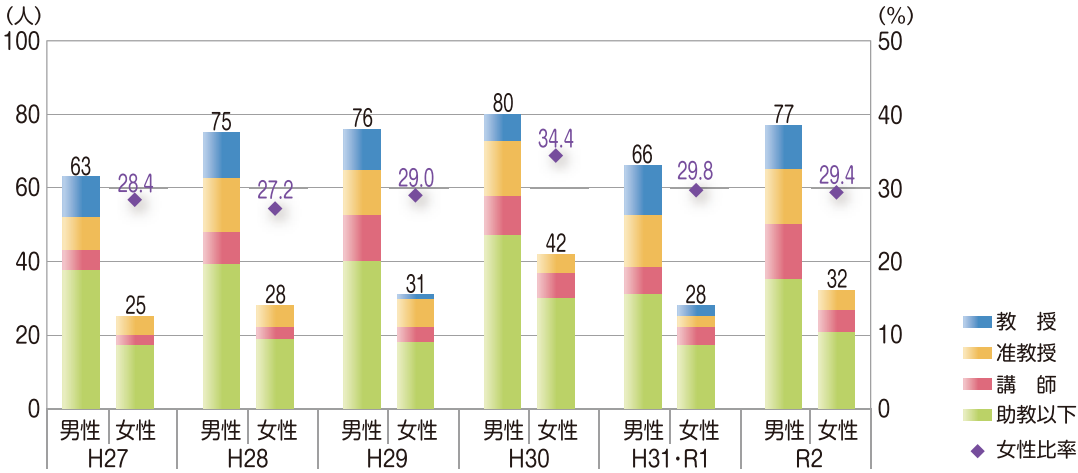
令和元年度～



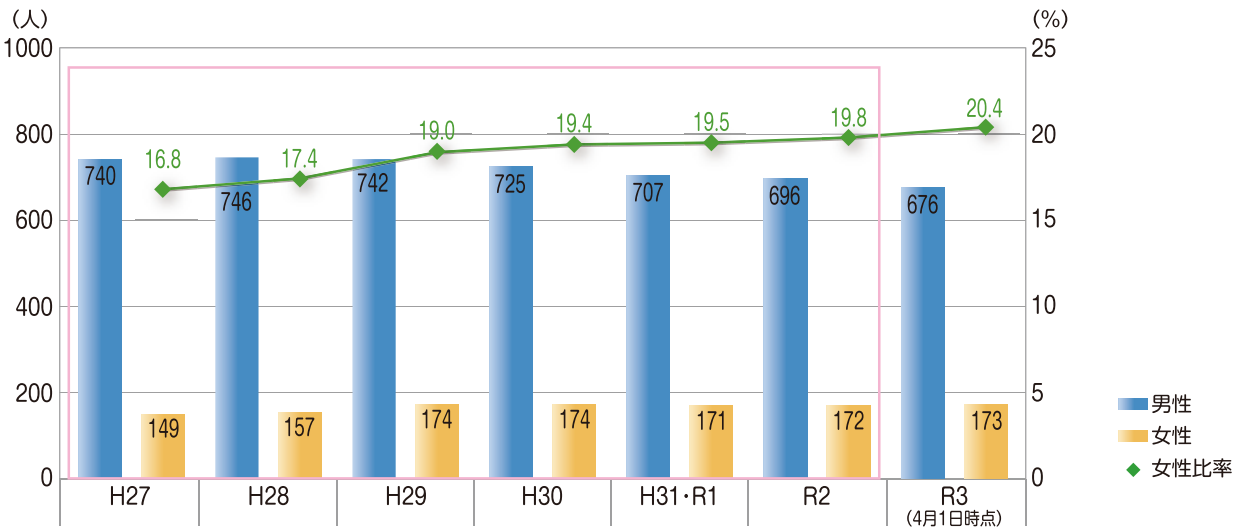
# 数値で見る琉球大学

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」の実施期間(平成27年度～令和2年度)、女性研究者の在籍比率は16.8%から19.8%へ上昇しました。また、女性研究者の採用比率も目標値の25%を各年度達成しました。

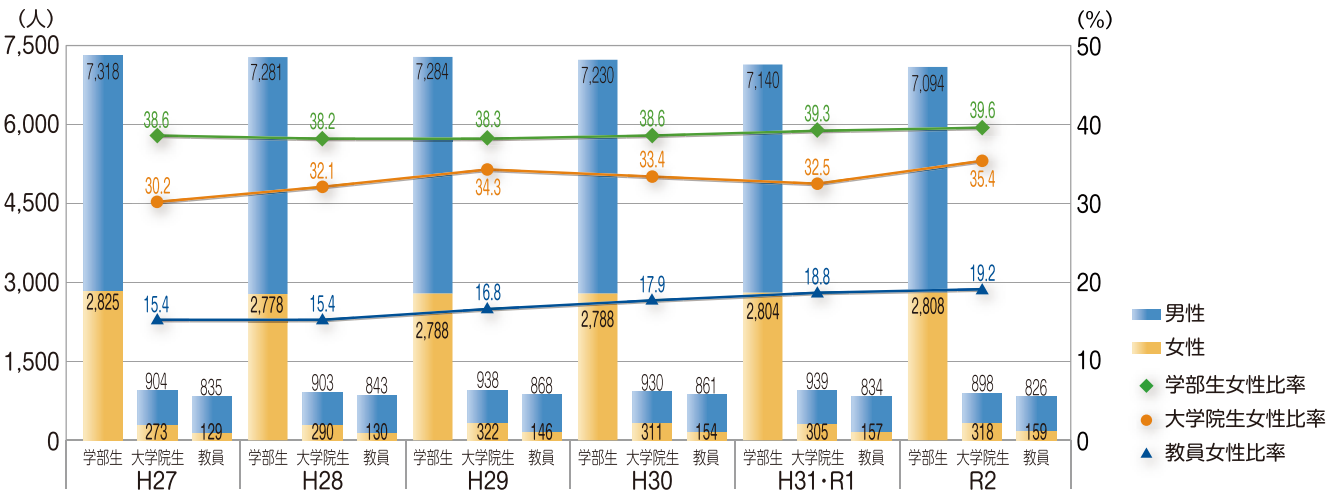
■ 図 琉球大学研究者採用者数・女性研究者採用比率



■ 図 琉球大学研究者在籍者数・女性研究者在籍比率



■ 図 琉球大学 教員・学生の推移



# ダイバーシティ研究環境整備のための取組

# 研究活動等支援員制度

出産・育児又は介護等に携わる研究者に対し、研究時間を確保し研究活動の活性化を促進するために、研究活動等支援員を配置しました。

本制度を利用する教員は、研究支援を行う研究活動等支援員に対し、ワーク・ライフ・バランスを踏まえた自らの研究やキャリア形成を考える手助けとなるよう監督・指導を行い、次世代の研究者育成に努めました。

## 【申請対象者】

本学に在職する専任教員、特命教員、特任教員のうち次のいずれかに該当する者。

ただし、本人又は配偶者（※）が産前産後休暇中、育児休業又は介護休業中の場合は除きます。

※届出をしないが事実上婚姻関係と同様の事情にある者を含む。

- (1) 女性研究者で、諸事情（例：ライフイベントや学内委員会委員等、社会貢献・地域貢献等）により研究時間を十分に確保することが困難な方
- (2) 配偶者が常勤の研究者又は指導的地位（役員や管理職等）である男性研究者のうち、次のアからエのいずれかに該当し、研究時間を十分に確保することが困難である方
  - ア 配偶者が妊娠中である方
  - イ 小学校6年生までの子どもを養育している方
  - ウ 要支援又は要介護の認定を受けている二親等以内の家族の介護がある方
  - エ その他、上記に準ずる理由がある方（例：難病、障がい者等の家族の介護がある等）
- (3) 独身の男性研究者で、上記②のイからエのいずれかに該当し、研究時間を十分に確保することが困難である方

■表 研究活動等支援員制度 利用者内訳（人）

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
申請者数	17 (1)	52 (7)	51 (3)	30 (2)	18 (0)	10 (0)
採択者数	17 (1)	44 (3)	45 (3)	16 (0)	18 (0)	10 (0)

※ ( ) の数字は、うち男性

## 研究活動等支援員制度を利用して

グローバル教育支援機構 准教授 山元 淑乃

大学のグローバル化を目指して、「流暢でなくても、誰ひとり取り残さず、何としても通じ合う」という「チャンプリング」というコンセプトのもとに、日本人と外国人が共に、地域をフィールドとして、深く学び合える場を提供することに力を入れ、その際に障害となる「ネイティブスピーカー志向」について研究しています。

私は次女を出産後に一人親となり、大学教員として働きながら二児を育て、博士号を取得しました。親の援助もなく、一人で育児・教育・研究を続けることができたのは、ジェンダー協働推進室の支援があってこそでした。何度も挫折しそうになった時、いつも応援して下さっているジェンダー協働推進室の先生やスタッフの方々、当時の上司であった 新垣 雄光センター長の顔が浮かびました。物理的な支援ももちろんですが、「ここで投げ出せば、これまで応援して下さった方々に合わせる顔がない」「職場が応援してくれている」という思いが、なんとか博論提出まで漕ぎつける原動力になったと思います。深く感謝申し上げます。いつかは私も、他者をエンパワーメントできる存在になりたいと思います。

## 支援活動を通して学んだこと

農学部亜熱帯地域農学科農林共生学コース 2 年次 島袋 優  
(担当 農学部亜熱帯地域農学科農林共生学分野 准教授 陳 碧霞)

### ●支援員として担当した業務

陳先生が長年研究を行っている、沖縄の備瀬フクギ屋敷林についての研究補助を行いました。具体的には、備瀬のフクギ屋敷林に訪れた観光客がそこで体験や思い出を Instagram に投稿する内容についてまとめていました。

### ●活動を通して気づいたこと

観光客がどんな場所を好み、思い出として残したいのかを調べていくことで、備瀬のフクギ屋敷林を今後どのように保全していかねばならないかを考える機会になりました。また、県内だけでなく県外からの観光客は、フクギ屋敷林だけでなくそばにある海や飲食店等での思い出にも価値を感じている様子が伺えたため、1つの観光地でも様々な角度からの価値を生み出すことが出来るのだと知ることが出来ました。データ収集を行い、それをまとめるという作業は私自身初めての経験であったため、最初は時間がかかりました。陳先生の補助を行って初めて、研究を行うことの奥深さと辛抱強さを知りました。

### ●研究と支援員を両立させるために気を付けていたこと

自分自身の体力とのバランスに気を付けました。特に、スケジュール管理をしっかりと行うことで、無理のない範囲で両立させることができました。後は、陳先生とのやり取りをこまめに行い、やっている事と求めていることにズレが生じないように気を付けました。

### ●将来に対する考え

私は、沖縄県内の農業をよりよくするために尽力する人間になりたいと常日頃考えています。それが起業することなのか、研究することなのかに関してはまだ未定ですが、学生のうちに様々な経験をする事でその分選択肢も増えると思います。今回の研究補助を行った経験もその1つで、より自分自身の興味のある分野について学ぶことができたので、今後も様々なところにアンテナを張りながら活動していきたいと思っています。



## 育児サポート・サービス利用料補助事業

教職員の仕事と家庭生活の両立を支援するため、育児支援における自治体等が運営するファミリー・サポート・センターを利用する場合の利用料の一部を補助しました。

### 【利用対象者】

本学に在職する教職員（非常勤職員の場合は社会保険加入者に限る）及び（独）日本学術振興会特別研究員（PD及びRPD）で、配偶者を有する場合は原則として配偶者が就労している場合のほか、配偶者の病気入院等により、育児サポート・サービスを利用しなければ就労することが困難であると認められる方。

ただし、補助事業の対象は要勤務日における利用に限り、産前産後休暇や育児休業等の休暇取得者や休業中の者は除き、補助対象可能な時間帯については、要勤務日における午前7時～午後10時までとし、補助対象外となる時間帯及び宿泊の利用については、自己負担とします。

### 【対象となる乳児等】

- (1) 0歳から小学校6年生までの乳幼児・児童
- (2) 身体障害者手帳又は療育手帳の交付を受けている満18歳に達するまでの子

### 【補助対象となるサポート・サービス内容】

- (1) 保育所、幼稚園、小学校及び放課後児童クラブ等（以下「保育施設等」という。）の保育開始前や、終了後の子どもの預かり
- (2) 保育施設等までの送迎
- (3) 保育施設等が休みの時の子どもの預かり
- (4) 病児・病後児の預かり

■表 育児サポート・サービス利用料補助事業 利用者内訳（人）

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
採択者数	7 (2)	12 (7)	15 (8)	6 (6)	13 (10)	6 (5)
利用者数	6 (2)	11 (5)	6 (4)	3 (3)	8 (5)	3 (3)

※ () の数字は、うち女性教員・研究者

## くるみんマークの取得

本学は、平成27年11月9日付で沖縄労働局長から次世代育成支援対策推進法に基づく「基準適合一般事業主（子育てサポート企業）」と認定され、「くるみんマーク（次世代認定マーク）」を取得しました。

なお、認定基準の一つである男性の育児休業の取得状況については、以前から引き続き平成27年以降も「琉球大学一般事業主行動計画」において、男性職員が育児支援制度を積極的に利用できるような環境整備に努めるとともに、男性職員の育児休業取得者数の数値目標を掲げ、全ての職員が仕事と子育てを両立させ、それぞれの個性と能力を十分に発揮できるよう取組を推進しています。



■表 育児休業取得者内訳（人）

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
教員	6 (0)	6 (1)	5 (1)	6 (0)	3 (1)	8 (3)
職員	50 (2)	31 (2)	47 (1)	48 (1)	66 (5)	74 (20)
計	56 (2)	37 (3)	52 (2)	54 (1)	69 (6)	82 (23)

※ () の数字は、うち男性

## 病児・病後児保育利用料補助事業

本学職員の就業及び家庭生活の両立を支援することを目的に、「病児・病後児保育利用料補助事業」を新たに設け、本学に在職する職員が病児・病後児保育事業を実施している病院等を利用した場合に限り、係る利用料の一部を補助しました。

### 【利用対象】

本学に在職する職員（非常勤職員の場合は社会保険加入者に限る）及び（独）日本学術振興会特別研究員（PD及びRPD）で、配偶者を有する場合は原則として配偶者が就労している場合のほか、特段の事情（配偶者の病気入院等）により、病児・病後児保育を利用しなければ就労することが困難であると認められる方。

### 【対象となる乳児等】

- (1) 0歳から小学校6年生までの乳幼児・児童
- (2) 身体障害者手帳又は療育手帳の交付を受けている満18歳に達するまでの子

■表 病児・病後児利用料補助事業 利用者内訳（人）

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
採択者数	11 (4)	24 (5)	22 (7)	8 (7)	10 (7)	6 (6)
利用者数	1 (1)	4 (2)	9 (4)	3 (3)	3 (2)	0

※ ( ) の数字は、うち女性教員・研究者

## 入試時等における託児室の開設

本学の教職員の仕事と家庭生活の両立支援として、大学入試センター試験（現「大学入学共通テスト」）及び一般入試（前期・後期）、オープンキャンパス、慰霊の日（6月23日）の際に学内において一時託児室を開設しました。

また、夏休みには、児童（小学生）を対象に学童保育を実施しました。

なお、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、託児室の開設を見送りました。



■表 平成27年度—令和元年度 託児室利用者内訳（人）

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
大学入試センター試験	0 (0)	2 (3)	4 (7)	6 (10)	4 (6)
一般入試前期・後期	-	5 (5)	1 (2)	-	-
オープンキャンパス	-	-	-	-	2 (3)
慰霊の日の託児室	11 (12)	18 (26)	19 (26)	-	-
夏休みの学童保育	19 (26)	19 (24)	-	17 (19)	-

※ ( ) の数字は、子どもの人数

※ 「-」は開設なし

## 女性教員介護帰省費用補助事業

仕事と介護を両立できる職場環境整備促進の一環として、「女性教員介護帰省費用補助事業」を新たに設け、県外又は県内離島に暮らす親の介護を目的とした帰省の際の費用（航空運賃）の一部を補助しました。

### 【利用対象者】

- (1) 本学に在職する女性研究者（社会保険加入の非常勤職員、日本学術振興会特別研究員（RPD）を含む）で、要介護状態にある家族を介護する必要がある方
- (2) 配偶者（届け出をしないが、事実上、婚姻関係と同様の事情がある方を含む）を有する場合は、原則として当該配偶者である方
- (3) 各航空会社が提供するいずれかの介護帰省割引制度（以下、「介護帰省割引制度」という）に登録し、これが適用される方

### 【補助対象となる範囲】

- (1) 申請者の「2親等以内の親族」が要支援・要介護認定を受けている場合
- (2) 介護帰省割引制度により航空券を購入、利用した場合
- (3) 介護帰省割引制度の登録者で介護帰省割引航空券を下回る価格の航空券を購入、利用した場合
- (4) その他、介護帰省割引制度に準じ、本学において所定の手続きにより必要と認めた場合

### 【補助の内容】

那覇空港から発着する各航空会社の路線のうち、介護帰省割引制度に定めた区間に限り、申請者本人の航空券代に対して補助する。

■表 介護帰省費用補助事業 利用者内訳（人）

帰省先	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
県外	3	2	2	2
県内	2	1	2	2

## かなさん介護セミナー

介護に関する正しい知識を身に付けるとともに、介護相談の機会の提供、介護と仕事の両立を職場として支援する体制を整えることを目的に、介護セミナーを開催しました。

遠隔地介護や介護予防、コロナ禍における介護に関する内容を取り上げ、ニーズにあわせた情報の提供に努めるとともに、地域包括支援センターの協力も得ながら、沖縄の地域における介護への理解促進も図りました。

■表 かなさん介護セミナー 開催実績

開催年度	講演タイトル	講師	参加者数 (人)
平成 29 年度	「家族に介護が必要になったら、どんな制度があるか～介護保険とは～」	百次 由美子 氏 (宜野湾市地域包括支援センター ふれあい 保健師、ケアマネジャー)	71
	「介護保険以外のしくみについて」		
	「介護予防について」		
平成 30 年度	「備えあれば憂いなし！～今から備える仕事と介護の両立心得～」	太田 差恵子 氏 (介護・暮らしジャーナリスト、NPO 法人パオッコ 理事長)	21
	「認知症サポーター養成講座」	百次 由美子 氏 (那覇市地域包括センター松島 保健師)	
令和元年度	「離れて暮らす親の介護～知っておくべき心構えと実用情報～」	太田 差恵子 氏 (介護・暮らしジャーナリスト、NPO 法人パオッコ 理事長)	22
令和 2 年度	「コロナ禍での親の介護」	太田 差恵子 氏 (介護・暮らしジャーナリスト、NPO 法人パオッコ 理事長)	15



平成 29 年度



平成 30 年度

### ■事後アンケートより（ご意見等）

航空券の介護帰省割引等、今まで知らなかった制度を知ることができたこと、今後そのような状況になってもポジティブに対処することの大切さを学ぶことができました。

離れて暮らすことに負い目を感じるデメリットばかりを考えていたので、メリットもあると知って気持ちが軽くなりました。

対象者の基礎知識に幅があるなかでの講演であるため仕方がないとは思いますが、既に知っている部分がありました。

実際に必要な事務手続きや行政のこと等、実態に沿った内容だったので大変勉強になりました。また、親に介護が必要になるときは、自分自身も気が回らないだろうから、親が元気なうちに情報をシェアする機会にもなったのでとてもありがたかったです。

# 女性研究者の研究力向上のための取組

## スキルアップセミナー

研究における国際的競争力を強化するため、英語論文の書き方や英語でのディスカッション力向上を目的としたスキルアップセミナーを開催しました。

令和2年度は、学内で研究支援を担当する研究推進課及び研究企画室と連携し、セミナー等を企画・開催しました。参加対象者に学内の男性・若手研究者も含め、プログラムを提供しました。



平成 27 年度



平成 29 年度



令和 2 年度

■表 平成 27 年度ー令和 2 年度 スキルアップセミナー 開催実績

開催年度	講演タイトル	講師	参加者数 (人)
平成 27 年度	英語論文ライティング講座 第1回「アドバンス編」 第2回「ディスカッション特訓編」	Kate Harris 氏、Julian Tang 氏 (エダンググループジャパン株式会社) Trevor Lane 氏、Julian Tang 氏 (エダンググループジャパン株式会社)	27
平成 28 年度	「英語論文個別指導」(面談)	川上 倫子 氏 (リンクサイエンス) Pamela Thoma 氏 (ワシントン州立大学)	25
	「英語論文ワークショップ」		
	「英語ディスカッション」		
平成 29 年度	”英語でゆんたく～女性研究者のための 英語ディスカッションフォーラム～” 第1回「真のプロフェッショナルをめざして」 第2回「多彩な才能を活かせる職場とは」	リア・シゲムラ 氏 (Enact Leadership)	63
	「英語論文の書き方 上級編」	小野 義正 氏 (理化学研究所創発物性科学研究センター)	
	「アサーティブ コミュニケーション ～言いにくいことを伝える方法～」	日下部 絵美 氏 (株式会社インソース)	
	「英語論文の書き方 上級編」 「英語論文プレゼンテーション」	小野 義正 氏 (理化学研究所創発物性科学研究センター)	
平成 30 年度	「タイムマネジメント～ワーク・ライフ・ バランスをかなえる時間管理法～」	四元 絵美 氏 (株式会社インソース)	11
令和元年度	「成果につながるファイリング」	小野 裕子 氏 (ファイリング・コンサルタント)	18
令和 2 年度	「accept されるための英語科学論文の 書き方」	庄子 栄美 氏 (エルゼビア・ジャパン株式会社) 木暮 一啓 (理事(企画・研究担当))	239
	「科研費申請を通すために」 ～科研費申請書の書き方～		
	「人前でしゃべるといこと」		
	「大学院は大学とどう違うのか」		

## 女性教員短期研究専念制度

本学に在職する女性教員の学術研究を推進し、本学の教育・研究の発展に貢献できる人材を育成する目的で、本学以外の教育機関等において一定期間研究又は学術調査に専念できる「女性教員短期専念制度」を新たに設け、実施しました。また、本制度を利用した女性教員による報告会も開催しました。

■表 女性教員短期研究専念制度 利用者内訳

平成 28 年度	観光産業科学部（教授）
	理学部（助教）
平成 30 年度	教育学研究科（教授）



平成 29 年度 報告会

■表 報告会 開催実績

開催年度	講演タイトル
平成 29 年度	「80日間 世界2/3周 — 研究者と交流を広げることによるメリット」
	「研究専念精度を利用して～フィールド研究の魅力の再発見～」
令和 2 年度	「沖縄の女性たちの学校・生活 — 沖縄の女性調査より —」

## 競争的資金獲得セミナー

本学の教員及び研究者を対象に、科研費採択に関するセミナーや講師による申請書作成の個別指導等、競争的資金獲得力向上を目指したプログラムを提供しました。

令和 2 年度は、コロナ禍においてもより多くの研究者が参加できるよう、オンラインによるセミナーの開催やオンデマンドでの配信等の方法で実施しました。

■表 競争的資金獲得セミナー 開催実績

開催年度	講演タイトル	講師	参加者数 (人)
平成28年度	「科研費採択に向けた効果的なアプローチ」	北川 慶子 氏(聖徳大学 教授)	9
平成29年度	「これなら獲れる！～押さえておくべき科研費採択のポイント」	北川 慶子 氏(聖徳大学 教授)	11
平成30年度	「競争的資金獲得セミナー～科研費採択へのアプローチ～」	矢野 覚士 氏 (ロバスト・ジャパン株式会社)	16
令和 2 年度	「科研費申請支援講演会」	中安 豪 氏 (ロバスト・ジャパン株式会社)	60



平成 28 年度

## 女性をリーダーとするグループ研究への研究助成

本学の総合企画戦略部研究推進課と連携し、既存の学内競争的資金である学長特別政策経費による「琉球大学女性研究者支援研究費」に加えて、女性研究者が研究代表者として牽引する共同研究への研究費助成「女性研究者支援研究費（グループ研究）」を新設し、平成28年度から実施しました。

■表 女性をリーダーとするグループ研究への研究助成 採択者数（人）

平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和2年度
3	2	1	2

## 英語論文校閲費用補助事業・国際学会派遣費用補助事業

女性研究者の研究力強化とキャリアアップを推進することを目的に、英語論文校閲費用補助事業では学術雑誌等への投稿用論文の英文校閲に係る費用の一部を、国際学会派遣費用補助事業では、国際学会等で研究成果発表を行うために必要な経費の一部を補助しました。

■表 英語論文校閲費用補助事業・国際学会派遣費用補助事業 採択者内訳（人）

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
英語論文	4	4	5	3	2	1
国際学会派遣	2	3	5	3	4	1

## インセンティブ経費の配分と女性限定公募

平成27年度から公募により女性研究者を採用した部局等に対して、インセンティブ経費の配分を行いました。

当初は、採用した女性研究者1名につき50万円、女性限定公募により採用した場合には100万円を加算し配分していましたが、平成30年からは上位職における女性比率向上を促進するため、教授、准教授等上位の職で採用した場合に傾斜配分する方法へ改定しました。

また、平成27年度からは女性研究者比率向上のための方策として「女性限定公募」の活用を各部局等に促し、これまでに5件の公募が行われました。女性研究者の積極的な採用方法の一つとして学内に定着し、採用部局等主導によって継続して実施されています。

■表 インセンティブ経費 配分実績

年度	配分先部局等
平成27年度	法文学部、大学院法務研究科、教育学部、機器分析支援センター
平成28年度	教育学部、理学部、工学部、農学部、グローバル教育支援機構（2件）
平成29年度	法文学部（2件）、教育学部、医学部、国際沖縄研究所
平成30年度	人文社会学部（2件）、国際地域創造学部、教育学部、医学部附属病院、農学部、グローバル教育支援機構
令和元年度	人文社会学部（3件）、国際地域創造学部、教育学部、医学部、グローバル教育支援機構、大学評価IRマネジメントセンター

### 【インセンティブ経費活用事例】

- 環境整備  
女性用トイレの整備、ベッド・ベビーチェアの設置、パーテーションの購入、多目的ルームの整備、事務補佐員の採用ほか
- 研究環境整備  
ノートパソコンの購入、研究用機器等の購入、研究室清掃、実験設備品の購入
- 安全対策  
照明環境の整備



※法文学部・共通教育棟の女性専用休憩室





# 女性研究者の上位職への積極的登用に向けた取組

## 琉球大学教員ポスト戦略的再配分（重点改革推進枠）による女性教授限定公募

女性教授の比率向上を図るとともに、本学が掲げる数値目標の達成に向けて事業推進の加速と強化を目的に、平成30年度から新たに「琉球大学教員ポスト戦略的再配分（重点改革推進枠）」を活用した女性教授限定公募を実施しました。これによって、令和元年12月には医学部附属病院（現琉球大学病院）創設以来初の女性教授が誕生しました。

平成30年度及び令和元年度は特に女性研究者の在職比率の低い自然科学系部局等を対象に募集を行っていましたが、令和2年度からは対象を全部局等に広げ女性教授限定公募実施部局を募っています。

また、インセンティブ経費の配分方法についても、上位職で採用した場合に傾斜配分する方法へと改定しました。（15頁参照）

■表 女性教授限定公募 採用実績

採択年度	部局等
平成30年度	医学部附属病院
令和元年度	理学部、工学部

## 部局長訪問

ダイバーシティ推進担当理事、ジェンダー協働推進室長及びジェンダー協働推進室メンバーが学内の学部長等を訪問し、女性研究者の積極的な採用と上位職登用、各種支援策等について情報提供及び意見交換を行いました。

■表 部局長訪問 実施実績

年度	部局等
平成27年度	理学部、医学部、工学部、農学部
平成28年度	法文学部、観光産業科学部、教育学部
平成29年度	工学部
令和元年度	理学部、医学部及び医学部附属病院、工学部、農学部

## ダイバーシティ推進トップセミナー

本学の学長、理事・副学長をはじめとする大学の管理運営に関わる教職員を主な対象に、ダイバーシティ推進トップセミナーを開催し、女性の活躍推進や上位職登用の必要性についての理解を深める機会としました。

■表 ダイバーシティ推進トップセミナー 開催実績

開催年度	講演タイトル	講師	参加者数 (人)
平成29年度	「Beyond the Bias and Barriers: 無意識の偏見(Unconscious Bias/アンコンシャス・バイアス)を知っていますか？」	大坪 久子 氏 (日本大学薬学部薬学研究所 上席研究員)	30
令和元年度	「昭和から令和へ ～働き方改革は昭和的価値観の変革から!!」	富原 加奈子 氏 (一般社団法人 沖縄県経営者協会女性リーダー部会長)	48



平成29年度



令和元年度

## ダイバーシティ推進セミナー

本学全教職員を対象に、多様な人材の登用と女性研究者支援に関する理解促進及び意識啓発を目的としたセミナーを開催しました。国内外から講師を招へいし、大学におけるダイバーシティ推進をテーマとして男女共同参画及び女性研究者支援、そして上位職登用の必要性についての理解を促進する機会を提供しました。

■表 ダイバーシティ推進セミナー 開催実績

開催年度	講演タイトル	講師	参加者数(人)
平成27年度	「大学改革と男女共同参画の推進」	吉武博通氏 (筑波大学ビジネスサイエンス系教授、お茶の水女子大学監事)	40
平成28年度	「地域活性化に果たす大学の役割 ー岩手大学男女共同参画の取組から」	菅原悦子氏 (岩手大学理事・副学長)	78
	「大学におけるダイバーシティの創成 ～ハワイ大学沖縄研究センターのあゆみ」	ジョイス・チネン氏 (ハワイ大学沖縄研究センター長)	
	「ハワイ大学における子育て支援とダイバーシティ」	テレサ・ビル氏 (ハワイ大学女性センター 特任教員)	
平成29年度	「ダイバーシティは死活問題 ～人材多様化の意義と大学」	エイミー・スエヨシ氏 (サンフランシスコ州立大学エスニック・スタディーズ学部 副学部長)	60
	「クイアなキャンパスの魅力 ～性の多様性と大学」	ティナ・タケモト氏 (カリフォルニア美術大学 准教授)	
	「多様な性の共存のために大学が対応すべきこと」	サミ・ネヴァアラ氏 (FRA 欧州基本権機関統計調査部門 主任)	
平成30年度	「多様性のある社会 ～スウェーデンからの報告～」	ルース・マンネルクヴィスト氏 (スウェーデンウメオ大学 社会科学部長 教授) ヨーレル・グランストリヨム氏 (スウェーデンウメオ大学 法学研究科長)	19
令和2年度	「アメリカで医師として生きる」	金城さくら氏 (カリフォルニア大学サンフランシスコ校 麻酔科講座臨床 教授)	300



平成28年度



平成29年度

## リーダーシップ研修

研究プロジェクトや大学運営における女性リーダー育成を目的に、リーダーシップ研修を実施しました。本学女性教員の上位職（教授、准教授）を主な対象とし、女性研究者が国際学会や会議、海外機関等との共同研究等においてリーダーシップを発揮し活躍できる英語力の向上を目指し、リーダーに必要なスキル等の習得のためのプログラムを提供しました。

女性研究者の研究力向上のための取組

■表 リーダーシップ研修 開催実績

開催年度	演 題	講 師	参加者数 (人)
平成27年度	「女性研究者のための英語によるリーダーシップ研修」	Linda Von Hoene 氏、Sabrina Soracco 氏 (University of California, Berkeley)	14
平成28年度	「女性研究者のための効果的なコミュニケーション術」	エリザベス・ハンドーバー 氏 (ルミナラーニングジャパン)	9
平成29年度	「女性研究者のための効果的なコミュニケーション」	エリザベス・ハンドーバー 氏 (ルミナラーニングジャパン)	10
平成30年度	「ともに成長するためのコミュニケーション術 ～多様な人材が支え合う文化を目指して～」	ミシェル・トンプソン 氏 (沖縄科学技術大学院大学多様化・職場厚生支援セクション シニアマネージャー)	9
令和元年度	「いざという時に役立つパブリックスピーキング&ファシリテーション」	アイリーン・トモエ・クーパー 氏 (株式会社 PREENT 代表取締役社長)	17
令和2年度	「英語力をつけるということ ～私の経験」 「研究者のコミュニケーション英語」	木暮 一啓 (理事(企画・研究担当)) 山平 寿智 (熱帯生物圏研究センター 教授) 喜納 育江 (国際地域創造学部 教授)	54



平成 27 年度



平成 28 年度



令和元年度

# 裾野拡大、地域・産学官との連携

## 琉球大学岸本遺贈基金寄附金「女子大学院生対象グローバル人材育成事業」

本学の博士後期課程及び専門職学位課程に在籍する女子大学院生を対象に、海外の研究機関等に派遣し、国際的な研究環境でのリサーチ活動や、異文化の学修環境に触れ多様な学問文化を経験することを通して、将来グローバルに活躍する次世代の女性研究者を養成することを目的とする「琉球大学岸本遺贈基金 女子大学院生対象グローバル人材育成事業」を実施しました。平成30年度から令和元年度までに合計7名の女子大学院生に支援を行いました。

なお、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により海外渡航が困難な状況となったため、実施を見送りました。

■表 琉球大学岸本遺贈基金「女子大学院生対象グローバル人材育成事業」 採択者数（人）

平成30年度	令和元年度
4	3

## 女子中高生理系進路選択支援事業

次世代を担う理系進学に関心のある女子高生を主な対象に、科学に対する興味を深め、将来の進路選択の一助となるよう、研究者による講演や実験等の体験、女子学生との交流会を行いました。平成27年度から平成30年度まで開催し、延べ137名の女子中高生が参加しました。

なお、平成30年度からは国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）「女子中高生理系進路選択支援事業」の採択を受け、「サイエンスプロジェクト for 琉球ガールズ」プログラムの一環として実施し、グローバル教育支援機構によって継続して行われています。

■表 サイエンスプロジェクト for 琉球ガールズ 開催実施

開催日	講演タイトル	講師	開催場所	参加者数 (人)
平成27年 8月20日(木)	「オキナワモズクの知られざるパワー」	小西 照子 (農学部 准教授)	沖縄県立 宮古青少年の家	7
	「クリーンな未来を実現する太陽エネルギー」	Sonia Ruiz Raga 氏 (沖縄科学技術大学院大学エネルギー材料と表面科学ユニット 研究員)		
	「理系ってどんなところ？」	古謝 風花 氏 (沖縄科学技術大学院大学イメージング&機器分析セクション)		
平成28年 3月25日(金) ～26日(土)	『家庭用洗剤の不思議 & 「液体の虹」の作り方』	Amy Shen 氏 (沖縄科学技術大学院大学マイクロ・バイオ・ナノ流体ユニット)	琉球大学亜熱帯フィールド科学教育研究センター	30
	「沖縄島北部に広がるやんばるの森」	高嶋 敦史 (亜熱帯フィールド科学教育研究センター 助教)	与那フィールド及び沖縄科学技術大学院大学	
平成29年 3月27日(月) ～28日(火)	「ハワイと沖縄から探る宇宙」	嘉数 裕子 氏 (国立天文台ハワイ観測所 博士)	石垣市天文台、国際サンゴ礁研究・モニタリングセンター、VERA電波望遠鏡ほか	30
	フィールドワーク (マングローブ・サンゴの観察)	高林 美咲 氏 (ハワイ大学ヒロ校 教授)		
平成30年 3月24日(土) ～25日(日)	「A love affair with science」	ゲイル・トリップ 氏 (沖縄科学技術大学院大学 発達神経生物学ユニット 教授)	沖縄科学技術大学院大学	30
	「工学系流体力学の研究紹介と研究生活について」	岡本 牧子 (教育学部 准教授)		
平成31年 3月23日(土) ～24日(日)	「ミツバチ学習センター」	マリアナ・ズラスケ・ボルジェス 氏 (沖縄科学技術大学院大学生態・進化学ユニット 博士)	沖縄科学技術大学院大学	40
	「食の専門家を目指して！～島ヤサイを活用した食育の実践～」	宮城 一菜 (農学部 准教授)		

## オープンキャンパス「理系女子のための自然科学分野紹介」

本学のオープンキャンパス時に訪れた理系進学に関心のある高校生を対象に、本学教員による講演と実験を行いました。平成28年度と平成29年度に開催し、延べ43名の高校生が参加しました。

■表 オープンキャンパス 開催実績

開催日	講演タイトル	講師	参加者数 (人)
平成28年7月16日(土)	「光化学研究の醍醐味と自然科学を仕事とする充実」	漢那 洋子 (理学部 准教授)	20
平成29年7月15日(土)	「単細胞生物は賢く生きている！」	國田 樹 (工学部 助教)	23

## キャリアデザインフォーラム

「ちゅら島の未来を創る知の津梁(かけ橋)事業」(COC 地<知>の拠点整備事業)の一環として、平成27年度から平成29年度の期間、計13回、講演会を開催しました。

■表 キャリアデザインフォーラム 開催実績

開催期間	講演タイトル	講師	開催数
平成27年6月22日(月) ～7月13日(月)	「多様な才能を活かせる社会をめざして ～「男らしさ」・「女らしさ」にこだわらない 生き方を学ぼう」	知念だしんいちろう氏(お笑い芸人)	4回
		平野 聡太郎氏 (元浦添市消防署消防士 あき内科クリニック 事務長)	
		Amy Sueyoshi氏 (Associate Dean, College of Ethnic Studies, San Francisco State University)	
		豊川 明佳氏 (有限会社インターリンク沖縄 代表取締役)	
平成28年6月20日(月) ～7月25日(月)	「国際化とジェンダー：沖縄の未来 を創るのは私たち」	豊川 明佳氏 (有限会社インターリンク沖縄 代表取締役)	4回
		益戸 正樹氏 (パークレイズ証券株式会社 顧問)	
		松山 章子氏 (長崎大学熱帯医学グローバルヘルス研究科 教授)	
		佐崎 淳子氏 (国連人口基金東京事務所 所長)	
平成29年6月12日(月) ～7月10日(月)	「仕事とは? 「やりがい」とは? 地域社会で活躍する女性たちから学ぼう」	豊川 明佳氏 (有限会社インターリンク沖縄 専務取締役)	5回
		名嘉村 裕子氏 (株式会社りゅうせきビジネスサービス 代表取締役社長)	
		前田 貴子氏 (株式会社ゆがふホールディングス 代表取締役専務)	
		仲村 広美氏(金武町議会 議員)	
		水越 晶子氏 (沖縄科学技術大学院大学施設管理ディビジョン ディビジョン アドミニストレータおよびエグゼクティブアシスタント)	

## 共通教育科目「キャリアデザインとジェンダー」

平成27年度から前期共通教育科目「キャリアデザインとジェンダー」を開講し、本学の様々な分野の女性教員や地域で活躍する方々を講師にお招きしオムニバスの形式の講義を行いました。

(所属及び職位は講演実施年度当時のもの)

■表 キャリアデザインとジェンダー 開催実績

開催年度	講演タイトル	講師	受講者数 (人)
平成27年度	序論 キャリアデザインとジェンダーの関係	喜納 育江 (国際沖縄研究所 教授)	65
	女性の社会進出とハラスメント	矢野 恵美 (法科大学院 准教授)	
	キャリアを決めるタイミング	藤田 陽子 (国際沖縄研究所 教授)	
	職業としての研究、ジェンダーとライフサイクル	野入 直美 (法文学部 准教授)	
	自分が主人公の人生を歩む	加瀬 保子 (法文学部 准教授)	
	「ジェンダーと自然科学—科学研究者としてのキャリアを現代科学論の観点から考える—」	漢那 洋子 (理学部 准教授)	
	リケジョ・りけじょ・理系女子?	伊澤 雅子 (理学部 教授)	
	植物が世界を救う	小西 照子 (農学部 准教授)	
	仕事と結婚・出産・育児のワーク・ライフ・バランス	高橋 美奈子 (教育学部 准教授)	
	小さなことの積み重ねが人生を決める	佐々木 香代子 (留学生センター 准教授)	
	〈笑い〉を仕事とするか?生き方とするか?	知念 臣一郎氏 (お笑い芸人・知念だしんいちろう)	
	消防士×女性医師 ～専門職にみる家事育児と仕事のバランス	平野 聡太郎氏 (元浦添市消防署消防士・あき内科クリニック 事務長)	
	大学および地域コミュニティにおける多様性とリーダーシップ	Amy Sueyoshi 氏 (Associate Dean, College of Ethnic Studies, San Francisco State University)	
地域活性化における女性の役割 夢へのプロセス ～3つのチャ・チャ・チャ～	豊川 明佳氏 (有限会社インターリンク沖縄 代表取締役)		
まとめ 「キャリアアップとワーク・ライフ・バランス」	喜納 育江 (国際沖縄研究所 教授)		
平成28年度	序論 キャリアデザインとジェンダー	喜納 育江 (法文学部 教授)	
	世界60か国を歩いてきて: 自分が本当に好きなことを仕事にする	小林 かおり (ジェンダー協働推進室マネージャー)	
	外国で働く女性研究者	陳 碧霞 (農学部 助教)	
	アクティブ・ラーニング: 自分の好きなことを仕事にするための序章	小林 かおり (ジェンダー協働推進室マネージャー)	
	海外研究者との交流:サンゴ礁研究を通じて	波利井 佐紀 (熱帯生物園研究センター 准教授)	
	島と国際性	藤田 陽子 (国際沖縄研究所 所長)	
	近づいて見えたもの、離れて気がついたこと	金城 ひろみ (法文学部 准教授)	
	性自認・性的指向とキャリアデザイン	矢野 恵美 (法務研究科 教授)	



開催年度	講演タイトル	講師	受講者数 (人)
平成28年度	多文化の中で伝える＜思い＞ ～家庭・研究・国際的行動の現場で	宜野座 綾乃 (国際沖縄研究所 博士研究員)	68
	留学で学べること：自分が主人公の人生を歩む	加瀬 保子 (法文学部 准教授)	
	夢へのプロセス ～3つのチャ・チャ・チャ～	豊川 明佳 氏 (有限会社インターリンク沖縄 代表取締役)	
	ジェンダー ～パネルディスカッションから学ぶ～	益戸 正樹 氏 (パークレイズ証券株式会社 顧問、 琉球大学経営評議会 評議員)	
	研究と実践を繋ぐー国際保健の現場での模索	松山 章子 氏 (長崎大学 熱帯医学グローバル ヘルス研究科 教授)	
	国際機関で女性が働くということ： 開発途上国の現場や本部での経験から	佐崎 淳子 氏 (国連人口基金 東京事務所 所長)	
	まとめ 「キャリアアップとワーク・ライフ・バランス」	喜納 育江 (法文学部 教授)	
平成29年度	序論 キャリアデザインとジェンダー	喜納 育江 (法文学部 教授)	65
	キャリアを通して見えてきたもの	喜納 育江 (法文学部 教授)	
	職場としての大学	保坂 雅子 (グローバル教育支援機構 准教授)	
	仕事としての研究	野入 直美 (法文学部 総合社会システム学科 准教授)	
	海藻のちから	小西 照子 (農学部 亜熱帯生物資源科学科 准教授)	
	<排尿ケアチーム>新設における多職種の連携	大湾 知子 (医学部 保健学科 准教授)	
	仕事をするということ	藤田 陽子 (国際沖縄研究所 所長・教授)	
	ロースクール教員・刑事法研究者という仕事	矢野 恵美 (法務研究科 教授)	
	多様性がある職場で働くとは	保坂 雅子 (グローバル教育支援機構 准教授)	
	夢へのプロセス ～3つのチャ・チャ・チャ～	豊川 明佳 氏 (有限会社インターリンク沖縄 専務取締役)	
	企業成長のためのダイバーシティ ～りゅうせきネットワークの取組み～	名嘉村 裕子 氏 (株式会社りゅうせきビジネスサービス 代表取締役社長)	
	中小企業よもやま話	前田 貴子 氏 (株式会社ゆがふホールディングス 代表取締役専務)	
	<唯一の女性町議会議員>としての仕事	仲村 広美 氏 (金武町議会 議員)	
	転職でキャリアを構築	水越 晶子 氏 (沖縄科学技術大学院大学 (OIST) 施設管理ディビジョン ディビジョン アドミニストレータおよび エグゼクティブアシスタント)	
キャリアアップとワーク・ライフ・バランス	喜納 育江 (法文学部 教授)		

## 九州・沖縄アイランド女性研究者支援ネットワーク（Q-wea）の活動

### ●九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウム

平成 28 年 11 月 11 日（金）、大学会館（現全保連ステーション）特別会議室において、「第 8 回 九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウム in 沖縄」を沖縄科学技術大学院大学との共同主催で開催しました。

本シンポジウムは、本学が参加する「九州・沖縄アイランド女性研究者支援ネットワーク（愛称 Q-wea）」に参加する九州・沖縄地区の大学全 12 機関（当時）によって平成 21 年度から毎年開催されているもので、第 8 回目のテーマは「九州・沖縄の国際化と女性研究者の役割」とし、女性研究者の国際舞台での活躍と各大学の女性研究者支援の特色ある取組を共有することで、九州・沖縄地域における女性研究者の活躍を促進させることを目的に開催しました。

小谷元子氏（東北大学原子分子材料科学高等研究機構長）による基調講演「異分野融合への挑戦」、参加 10 機関の理事・副理事によるパネルディスカッションが行われ、学内外から 120 名が参加しました。



### ●九州・沖縄アイランド女性研究者支援ネットワーク（Q-wea）スペシャルミーティング

平成 28 年 12 月 1 日（木）、東京の TKP ガーデンシティ竹橋において、「九州・沖縄アイランド女性研究者支援ネットワーク（Q-wea）スペシャルミーティング」を実施しました。日本大学薬学部薬学研究所上席研究員の大坪久子氏によるミニレクチャーと意見交換が行われ、Q-wea 参加機関に加え、全国の大学等で女性研究者支援の取組に携わる実務担当者ら 33 名が参加しました。

## 沖縄県における女性産学官コンソーシアム

地域の男女共同参画への意識啓発と、地域の活性化を担う女性リーダーの育成、沖縄県における女性産学官コンソーシアムの構築へ繋げることを目的に、沖縄県内の産学官でめざましい活躍をされている女性リーダーの方々による意見交換会を、平成 28 年 1 月 22 日（金）と平成 29 年 3 月 9 日（木）の 2 回開催しました。

平成 28 年度は、女性リーダーを育成するために必要な方策、女性の視点を活かした産学官の連携による女性の活躍を促進する取組、産学官の果たすべき役割や産官から大学に対する要望等について、平成 29 年度には将来の沖縄の各分野において社会をリードする職業人、特に女性の職業人を育成するために持続可能な産学官の協力体制（インターンシップ等）のあり方について、人事や女性職業人の教育に関わる方々が様々なお立場から貴重な意見を交わされました。

# 基金・広報活動

# 琉球大学特定基金「琉球大学うない女性研究者・リーダー育成基金（うない基金）」

平成 30 年度に、新たに特定基金「琉球大学うない女性研究者・リーダー育成基金」、通称「うない基金」を創設しました。

本基金は、次代を拓く優秀な女性リーダーを輩出することにより、地域社会・国際社会に貢献するとともに、男女共同参画ならびにダイバーシティを推進することを目的として、本学に所属する女性研究者及び女子学生の教育研究活動ならびに人材育成に関する事業を助成します。



## 琉球大学 うない女性研究者・リーダー育成基金(うない基金)

琉球大学に所属する女性研究者および女子学生の教育研究活動および人材育成に関する事業を助成し、次代を拓く優秀な女性リーダーを輩出することにより、地域社会・国際社会に貢献するとともに、男女共同参画ならびにダイバーシティを推進することを目的に、「うない基金」を創設しました。本基金の趣旨にご賛同いただき、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

「うない」とは、沖縄のこぼの表現のひとつで「姉妹」を意味しますが、現代の沖縄では「女性たち」、あるいは女性たちの主体的な結びつきや支え合いという意味を込めて様々な用いられています。琉球大学ジェンダー協働推進室では、こうした「うない」の精神こそが、全ての人々が活躍できる未来社会創造への原動力となると信じ、本特定基金の呼称を「うない基金」としました。



**◇寄附金のご案内◇**

1口 1,000円  
趣旨をご理解いただき、**複数口(5口以上)**でご協力頂きますと幸いです。

**◇寄附方法◇**

琉球大学Webサイトから、クレジットカード決済によるお手続きが可能です。銀行口座振込でもご寄附いただけます。  
<https://payment.kikin.jim.u-ryukyu.ac.jp/u-ryukyu/entry.php>

**◇寄附者ご芳名◇**

ジェンダー協働推進室ホームページ等に、ご寄附いただいた方々のご芳名を掲載いたします。また、高額寄附者への顕彰も予定しております。

**女性研究者のリーダーシップ育成・支援**

- ・学会等へのオガナイザー派遣
- ・英語によるリーダーシップ研修

**若手女性研究者の研究力強化・支援**

- ・英語論文等スキルアップセミナーの開催
- ・競争的資金獲得セミナーの開催 等

**女子学生の育成・支援**

- ・「うない奨励賞」の授与

**地域における男女共同参画推進及び次代を担う女性人材の育成**

- ・他機関との連携による次世代育成事業

**女性研究者が安心して働ける職場環境の整備**

- ・「ライフイベント」等との両立のための環境整備

**【お問い合わせ】**  
琉球大学ジェンダー協働推進室  
098-895-8675  
gender@to.jim.u-ryukyu.ac.jp  
<http://www.gender.jim.u-ryukyu.ac.jp/>

**【名称について】**

「うない」とは、沖縄のこぼの表現のひとつで「姉妹」を意味しますが、現代の沖縄では「女性たち」、あるいは女性たちの主体的な結びつきや支え合いという意味を込めて様々な用いられています。こうした「うない」の精神こそが、全ての人々が活躍できる未来社会創造への原動力となると信じ、本特定基金の呼称を「うない基金」としました。

## 情報発信

### ● ニュースレター

平成 27 年度から令和 2 年度にかけて合計 9 号発行しました。

※ジェンダー協働推進室 HP において、過去のニュースレターをデータ版でご覧いただけます。

<http://www.gender.jim.u-ryukyu.ac.jp/guidebook02/>



●ポスター・リーフレット等

琉球大学における様々な取組を紹介するガイドブック、リーフレット、ポスター等を作成し、周知しました。

■ポスター

本学のアクションプラン、中期目標・中期計画の指標に基づき、女性研究者のさらなる在職比率の向上、上位職への登用を啓発するためのポスターを全学に掲示しました。



■ガイドブック

平成 29 年の育児介護休業法（育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律）の改正に伴い、『育児介護等支援ガイドブック』を改訂し学内に配布しました。



■リーフレット

本学の男女共同参画及び「特色型」事業を主とする女性研究者支援の取組、各種支援策等について紹介する「リーフレット」を作成しました。

また、女性研究者の採用を促進するため、本学における支援等取組について紹介したパンフレット『琉球大学は女性研究者を支援しています！！～「琉大に来てよかった」と言ってもらえるために』を作成し、公募時のリクルーティングに活用できるよう学内に配布しました。



● ホームページ

「特色型」事業の紹介をはじめ支援情報、イベントの案内等を掲載し情報発信を行いました。

URL <http://www.gender.jim.u-ryukyu.ac.jp/>



● 中間報告シンポジウムの開催

平成 30 年 2 月 19 日（月）、「中間報告シンポジウム～女性のリーダーが活躍する大学を目指して～」を開催しました。

本シンポジウムは、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」（平成 27 年度～令和 2 年度）における前半 3 年間の事業実施状況と、本学が掲げている数値目標の達成状況等について、学内に報告を行うことを目的に実施しました。第 1 部では基調講演「Beyond the Bias and Barriers: 無意識の偏見（Unconscious Bias/アンコンシャスバイアス）を知っていますか？」と題し、日本大学薬学部薬学研究所・首席研究員の大坪久子氏に講演いただきました。講演後のクロストークでは、「多様な人材を上位職に登用するためには」というテーマで、ディルワース・マチ氏（沖縄科学技術大学院大学男女共同参画・人材育成担当 副学長）、大坪久子氏、花城梨枝子理事・副学長による意見交換を行いました。

第 2 部では、喜納育江ジェンダー協働推進室長から事業の実施報告があり、後半には、山口真理氏（鹿児島大学男女共同参画推進センター コーディネータ）、清水鈴代氏（宮崎大学清花アテナ男女共同参画推進室 副室長）、深谷桃子ジェンダー協働推進室コーディネーターによる女性研究者支援を継続していくための有り方等に関するディスカッションが行われ、38 名の教職員が参加しました。





資 料



# 活動報告（平成27年度～令和2年度）

## ●平成27年度

4/1	女性研究者採用に対するインセンティブ経費の配分
4/13	前期共通教育科目「キャリアデザインとジェンダー」開講
6/22	第1回キャリアデザインフォーラム「<笑い>を仕事とするか？生き方とするか？」開催
6/23	「慰霊の日」託児ルーム開設
6/29	第2回キャリアデザインフォーラム「消防士×女性医師～専門職にみる家事育児と仕事のバランス～」開催
7/6	第3回キャリアデザインフォーラム「大学および地域コミュニティにおける多様性とリーダーシップ」開催
7/13	第4回キャリアデザインフォーラム「地域活性化における女性の役割夢へのプロセス～3つのチャ・チャ・チャ～」開催
7/18	オープンキャンパス「理系女子のための自然科学分野紹介」実施
8/3-8/7	「夏休み学童保育2015」実施
8/20	「サイエンスプロジェクト for 琉球ガールズ」（於：宮古島）実施
9/11	「第7回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウム in 鹿児島」共催
10/1	育児サポート・サービス利用料補助事業開始
11/1	研究活動等支援員制度開始
11/2	英文校閲費用助成事業、国際学会派遣費用助成事業実施
12/1	育児サポート・サービス利用料補助事業追加支援実施
12/14	女性研究者確保に関する検討委員会より、女性研究者確保に関する中・長期的な方策について学長に答申
1/18	病児・病後児保育利用料補助事業開始
1/22	沖縄県における女性産学官コンソーシアムの構築に向けた意見交換会開催
2/6	スキルアップセミナー「英語論文ライティング講座（アドバンスト編）」開催
2/9	部局長訪問（医学部）実施
2/12	部局長訪問（農学部）実施
2/18	部局長訪問（理学部）実施
2/23	部局長訪問（工学部）実施
3/6	スキルアップセミナー「英語論文ライティング講座（ディスカッション特訓編）」開催
3/10	ダイバーシティ推進セミナー「大学改革と男女共同参画の推進」開催
3/16	全学女性研究者のライフイベントに関する現状調査を実施
3/21-22	英語による「女性研究者のためのリーダーシップ研修」開催
3/25-26	「サイエンスプロジェクト for 琉球ガールズ」（於：OIST、与那フィールド）実施
3/31	ニューズレター『うない通信』Vol.9 発行

## ●平成28年度

4/1	女性研究者採用に対するインセンティブ経費の配分
4/1	病児・病後児保育利用料補助事業開始
4/18	前期共通教育科目「キャリアデザインとジェンダー」開講
5/1	第1期研究活動等支援員制度開始
5/25	教授会におけるFD研修（農学部）実施
5/30	部局長訪問（法文学部）実施
6/2	部局長訪問（観光産業科学部）実施



6/8	部局長訪問（教育学部）実施
6/20	第1回キャリアデザインフォーラム「夢へのプロセス～3つのチャ・チャ・チャ～」開催
6/22	教授会におけるFD研修（工学部）実施
6/23	「慰霊の日」託児ルーム開設
6/27	第2回キャリアデザインフォーラム「ジェンダー～パネルディスカッションから学ぶ～」開催
6/29-8/1	女性教員短期研究専念制度（試行）募集
7/6	「琉球大学女性研究者支援研究費（グループ研究）」実施
7/11	第3回キャリアデザインフォーラム「研究と実践を繋ぐー国際保健の現場での模索」開催
7/16	オープンキャンパス「理系女子のための自然科学分野紹介」実施
7/16	第1期英文校閲費用助成事業、国際学会派遣費用助成事業実施
7/25	第4回キャリアデザインフォーラム「国際機関で女性が働くということ：開発途上国の現場や本部での経験から」開催
7/27	教授会におけるFD研修（医学部）実施
8/1-8/5	「夏休み学童保育2016」実施
8/1	ニューズレター『うない通信』Vol.10発行
8/15	育児サポート・サービス利用料補助事業開始
8/10	「琉大アクションプラン（平成28年度～令和3年度）」改訂
8/17	教授会におけるFD研修（理学部）実施
9/21	教授会におけるFD研修（教育学部）実施
10/1	第2期研究活動等支援員制度開始
10/26	教授会におけるFD研修（法文学部）実施
11/9	教授会におけるFD研修（観光産業科学部）実施
11/11	「第8回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウム in 沖縄」開催
11/11	第2期英文校閲費用助成事業、国際学会派遣費用助成事業実施
11/25-26	スキルアップセミナー「英語論文個別指導」開催
11/27	スキルアップセミナー「英語論文ワークショップ」開催
12/1	九州・沖縄アイランド女性研究者支援ネットワーク スペシャル・ミーティング（於：東京）開催
12/19	育児サポート・サービス利用料補助事業追加支援実施
1/13	スキルアップセミナー「英語ディスカッション」開催
1/15	大学入試センター試験託児室開設
2/15-16	英語によるリーダーシップ研修「女性研究者のための効果的なコミュニケーション術」開催
2/24	競争的資金獲得セミナー「科研費採択に向けた効果的なアプローチ」開催
2/25-26	一般入試（前期）託児室開設
3/6	ダイバーシティ推進セミナー「地域活性化に果たす役割～岩手大学男女共同参画の取組から～」開催
3/9	沖縄県における女性産学官コンソーシアムの構築に向けた意見交換会開催
3/12	一般入試（後期）託児室開設
3/27-28	「サイエンスプロジェクト for 琉球ガールズ」（於：石垣島）実施
3/30	ダイバーシティ推進セミナー「ハワイ大学におけるダイバーシティ推進」開催
3/31	ニューズレター『うない通信』Vol.11発行、『ジェンダー協働推進室』リーフレット発行

## ●平成 29 年度

4/1	病児・病後児保育利用料補助事業開始
4/2	育児サポート・サービス利用料補助事業開始
4/10	前期共通教育科目「キャリアデザインとジェンダー」開講
4/28	部局長訪問（工学部）実施
5/11-	女性研究者採用に対するインセンティブ経費の配分
5/29-30	Gender Summit 10 Satellite Conference in Okinawa（於：沖縄科学技術大学院大学）共催
6/1	第 1 期研究活動等支援員制度開始
6/12	第 1 回キャリアデザインフォーラム「夢へのチャレンジ～3つのチャ・チャ・チャ～」開催
6/16-20	千原キャンパス保育施設設置に関する WEB アンケート実施
6/19	第 2 回キャリアデザインフォーラム「企業成長のためのダイバーシティ ～りゅうせきネットワークの取り組み～」開催
6/23	「慰霊の日」託児室開設
6/26	第 3 回キャリアデザインフォーラム「中小企業よもやま話」開催
7/3	第 4 回キャリアデザインフォーラム「＜唯一の女性町議会議員＞としての仕事」開催
7/10	第 5 回キャリアデザインフォーラム「転職でキャリアの構築」開催
7/14	平成 28 年度女性教員短期研究専念制度（試行）報告会開催
7/15	オープンキャンパス「理系女子のための自然科学分野紹介」開催
7/24	第 1 期英文校閲費用助成事業、国際学会派遣費用助成事業実施
8/4	ダイバーシティ推進セミナー「ダイバーシティは死活問題～人材多様化の意義と課題」開催
8/7	ダイバーシティ推進セミナー「クイアなキャンパスの魅力～性の多様性と大学」開催
8/8	スキルアップセミナー「英語でゆんたく～女性研究者のための英語ディスカッションフォーラム～」 「真のプロフェッショナルをめざして」開催
8/9	スキルアップセミナー「英語でゆんたく～女性研究者のための英語ディスカッションフォーラム～」 「多様な才能を活かせる職場とは」開催
8/9	女性研究者介護帰省費用補助事業（試行）実施
8/10	競争的資金獲得セミナー「これなら獲れる！～押さえておくべき科研費採択のポイント」開催
9/25	「第 9 回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウム in 福岡」共催
10/1	ニューズレター『うない通信』Vol.12 発行
10/19	育児サポート・サービス利用料補助事業追加支援実施
10/23	第 2 期英文校閲費用助成事業、国際学会派遣費用助成事業実施
11/1	第 2 期研究活動等支援員制度開始
11/17-1/5	平成 30 年度女性教員短期研究専念制度（試行）募集
11/24	スキルアップセミナー「英語論文の書き方～ Technical Writing in English」開催
12/21, 27	かなさん介護入門セミナー連続講座第 1 回「家族に介護が必要になったら、どんな制度があるか～介護保険とは～」開催
12/25	スキルアップセミナー「アサーティブコミュニケーション～言いにくいことを伝える方法～」開催
1/13-14	大学入試センター試験託児室開設
1/18, 24	かなさん介護入門セミナー連続講座第 2 回「介護保険以外のしくみについて」開催
1/23	ダイバーシティ推進トップセミナー「Beyond the Bias and Barriers: 無意識の偏見（Unconscious Bias/アンコンシャス・バイアス）を知っていますか？」開催
1/26	スキルアップセミナー「英語論文の書き方上級編」開催
1/27	スキルアップセミナー「英語論文プレゼンテーション」開催

2/5	かなさん介護入門セミナー講演会「備えあれば憂いなし！～今から備える仕事と介護の両立心得～」開催
2/15-16	英語で行うリーダーシップ研修「女性研究者のための効果的なコミュニケーション術」開催
2/19	中間報告シンポジウム「女性リーダーが活躍する大学を目指して」開催
2/22, 28	かなさん介護入門セミナー連続講座第3回「介護予防について」開催
2/25	一般入試（前期）託児室開設
3/14	ダイバーシティ推進セミナー「多様な性の共存のために大学が対応すべきこと」開催
3/19	ニューズレター『うない通信』Vol.13 発行
3/24-25	「サイエンスプロジェクト for 琉球ガールズ Vol.7」（於：恩納村）開催
3/31	『琉球大学は女性研究者を支援しています!!「琉大に来てよかった」と言ってもらえるために』リーフレット発行

## ●平成30年度

5/1	育児サポート・サービス利用料補助事業開始
5/1	病児・病後児保育利用料補助事業開始
5/1	女性研究者介護婦省費用補助事業開始
6/1	第1期研究活動等支援員制度開始
6/6	第1期英文校閲費用補助事業、国際学会派遣費用補助事業実施
6/26	国立大学法人琉球大学うない女性研究者・リーダー育成基金制定
8/1-7	「夏休み学童保育2018」開催
8/21-10/15	国立大学法人琉球大学岸本基金寄付金「女子大学院生対象グローバル人材育成事業」募集
9/14	「第10回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウム in 宮崎」共催
10/23	第2期英文校閲費用補助事業、国際学会派遣費用補助事業実施
11/1	第2期研究活動等支援員制度開始
12/27-1/31	平成31年度女性教員短期研究専念制度募集
1/19-20	大学入試センター試験託児室開設
2/13, 22	かなさん介護セミナー「認知症サポーター養成講座」開催
2/18	女性研究者採用に対するインセンティブ経費の配分
2/22	教員ポスト戦略的再配分（重点改革推進枠）「自然科学系分野における女性教授の限定公募」実施
3/4	競争的資金獲得セミナー「科研費採択へのアプローチ」開催
3/5	英語でおこなうリーダーシップ研修「共に成長するためのコミュニケーション術～多様な人材が支え合う文化を目指して～」開催
3/22	ダイバーシティ推進セミナー「多様性のある社会～スウェーデンからの報告～」開催
3/23-24	「サイエンスプロジェクト for 琉球ガールズサイエンスキャンプ Vol.8」（於：恩納村）開催
3/26	スキルアップセミナー「タイムマネジメント～ワークライフバランスを叶える時間管理法～」開催
3/29	ニューズレター『うない通信』Vol.14 発行

## ●令和元年度

5/1	育児サポート・サービス利用料補助事業開始
5/1	病児・病後児保育利用料補助事業開始
5/1	女性研究者介護婦省費用補助事業開始
6/1	第1期研究活動等支援員制度開始
6/10-13	女性研究者対象「研究活動に関するアンケート調査」実施
7/11	琉球大学岸本遺贈基金寄付金「女子大学院生対象グローバル人材育成事業」募集

7/13	オープンキャンパス託児室開設
7/22	ダイバーシティ推進トップセミナー「昭和から令和へ～働き方改革は昭和的価値観の変革から!!」開催
8/16	国際学会派遣費用補助事業実施
9/20	「第11回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウム in 福岡」共催
11/1	第2期研究活動等支援員制度開始
11/13	ニューズレター『うない通信』Vol.15 発行
11/22, 29	部局長訪問（理学部、工学部、農学部、医学部及び医学部附属病院）実施
1/18-19	大学入試センター試験託児室開設
1/20	女性研究者採用に対するインセンティブ経費の配分
1/21	英文校閲費用補助事業実施
2/18	かなさん介護セミナー「離れて暮らす親の介護～知っておくべき心構えと実用情報～」開催
2/20	スキルアップセミナー「成果につながるファイリング」開催
2/25	教員ポスト戦略的再配分（重点改革推進枠）「自然科学系分野における女性教授の限定公募」実施
3/4, 11	英語でおこなうリーダーシップ研修「いざという時に役立つパブリックスピーキング&ファシリテーション」開催
3/25	ニューズレター『うない通信』Vol.16 発行

## ●令和2年度

4/1	病児・病後児保育利用料補助事業開始
4/1	育児サポート・サービス利用料補助事業開始
4/1	女性研究者介護婦省費用補助事業開始
8/7	スキルアップセミナー「acceptされるための英語科学論文の書き方」開催
9/1	研究活動等支援員制度開始
9/2-11/15	科研費セミナー「科研費申請支援講演会」（動画配信）開催
12/17	男性教職員の育児休業取得促進セミナー「教えて！イクメンの星！育休はどうして取るの？」開催
9/18	スキルアップセミナー「科研費申請書を通すために 木暮セミナー：科研費申請書の書き方」開催
9/28	スキルアップセミナー「科研費申請書を通すために 第2回木暮セミナー：科研費申請書の書き方」開催
12/7	スキルアップセミナー「第2弾木暮セミナー：人前でしゃべるといこと」開催
12/18	女性教員短期研究専念制度報告会開催
1/18	介護セミナー「コロナ禍での親の介護」開催
1/28	スキルアップセミナー「第3弾木暮セミナー：大学院は大学とどう違うのか」開催
2/2	英文校閲費用補助事業実施
2/3	国際学会派遣費用補助事業実施
2/19	リーダーシップ研修「第1回 英語を使うということ～私の経験」開催
3/26	リーダーシップ研修「第2回 研究者のコミュニケーション英語」開催
3/29	ニューズレター『うない通信』Vol.17 発行

# アクションプラン

## アクションプラン（平成 24～27 年度）

平成 24 年 2 月 28 日  
琉球大学

1. 男女共同参画意識の醸成と情報発信
  - (1) 意識啓発のためのセミナー、研修会等の開催
  - (2) HP、ポスター、リーフレット等を活用した情報提供
  - (3) 男女共同参画の取り組みや女性研究者の活躍等の学外への積極的な情報発信
  - (4) 男女共同参画やジェンダー学関連の教育科目等の充実
2. 職場環境の改善・充実
  - (1) 文部科学省が実施する「女性研究者研究活動支援事業」を活用した研究補助者の確保
  - (2) 女性研究者支援のための学内予算の確保
  - (3) 学内保育施設など利用しやすい育児環境の整備
  - (4) 育児、介護休業の取得促進
  - (5) 在宅勤務制度の導入に向けた検討
  - (6) 女性教職員向け相談窓口の設置及びメンター制度の導入
3. 女性教職員比率の向上等
  - (1) 女性教員比率向上に向けた目標値の設定  
(平成 27 年度末までに 17%以上)
  - (2) 女性教職員の指導的地位への登用など職位別男女比率の改善努力

## アクションプラン（平成 28～令和 3 年度）

平成 28 年 8 月 10 日  
琉球大学

1. 男女共同参画意識の醸成と情報発信
  - (1) 全学的な意識啓発の推進
  - (2) HP、ポスター、リーフレット等を活用した情報提供
  - (3) 男女共同参画の取り組みや女性研究者の活躍等の学外への積極的な情報発信
  - (4) 男女共同参画やジェンダー学関連の教育科目等の充実
2. 職場研究環境の改善・充実
  - (1) 研究に専念できる環境整備の推進
  - (2) 女性研究者支援のための学内予算の確保
  - (3) スキルアップ支援の積極的な実施
  - (4) ワーク・ライフ・バランスの推進
  - (5) 柔軟な勤務体制の確立に向けた取り組み
  - (6) 女性比率向上に向けた人事プロセスの確立
  - (7) 相談・支援体制の整備
3. 女性研究者の上位職への積極的登用に向けた取り組み
  - (1) 女性教員在職比率向上に向けた目標値の設定  
(平成 33 年度末までに 19%以上)
  - (2) 女性教職員の指導的地位への登用など職位別男女比率を平成 33 年度までに 20%以上達成
  - (3) 女性研究者のリーダーシップの育成

## 第5期 国立大学法人琉球大学一般事業主行動計画 (次世代育成支援対策推進法関係)

平成30年4月1日

琉球大学では、全ての職員が仕事と子育てを両立できる働きやすい環境をつくとともに、職員がそれぞれの個性及びその能力を十分に発揮できるよう、次のように行動計画を策定する。

I 計画期間：平成30年4月1日から平成33年3月31日まで

II 計画内容：

### 1. 子育てと仕事の両立を支援するための雇用環境の整備

目標1 出産・育児・介護支援にかかる休暇・休業を取得しやすい職場環境の整備・充実を図る。

〈対策〉平成30年4月～

- ・ 出産・育児・介護支援にかかる各種制度の利用促進を図るため、ホームページによる情報提供や改訂したガイドブック等の配付を行い、制度の周知に努める。
- ・ 育児サポートサービスや病児・病後児保育サービス利用者への支援、夏休み学童保育、入学試験時の託児室設置等の育児支援を実施する。
- ・ 要介護状態にある家族を介護するための帰省費用の支援を実施する。

目標2 男性職員が育児支援制度を積極的に利用できるよう、環境整備に努める。また、計画期間内において男性職員の育児休業等の取得者を10名以上とする。

〈対策〉平成30年4月～

- ・ 男性職員が取得可能な子育てに関する各種休暇・休業制度の周知を行い、取得の促進を図る。

### 2. 働き方の見直しに資する多様な労働条件の整備

目標3 時間外労働の縮減および年次休暇の取得を促進するための措置を講じる。

〈対策〉平成30年4月～

- ・ 会議・打合せ等は、開始及び終了時刻に配慮し、可能な限り所定労働時間内に行うよう周知徹底を行い、時間外労働の縮減を図る。
- ・ ワーク・ライフ・バランスの推進のため、職員の定時帰宅を促進する。
- ・ 業務運営の効率化や業務量の平準化を推進し、時間外労働の縮減に努める。
- ・ 年次休暇や夏季休暇等の計画的な取得を促進し、各部署において引き続き休暇を取得しやすい環境を整備する。

目標4 職員の多様で柔軟な働き方が尊重される環境や風土を醸成する。

〈対策〉平成30年4月～

- ・ 育児・介護、ワーク・ライフ・バランスに関するセミナーを実施し、男性職員を含めた教職員全体に対して働き方の見直しに関する意識の啓発を行う。

## 第2期 国立大学法人琉球大学 一般事業主行動計画 (女性の職業生活における活躍の推進に関する法律関係)

平成30年4月1日

琉球大学では、全ての職種において女性職員の割合を上昇させるとともに、大学の意思決定過程や管理職等の指導的地位に占める女性の割合を増やし、女性が活躍できる雇用環境を整備することを目的に、次のように行動計画を策定する。

目標1. 大学教員に占める女性教員の比率を18.1%以上とする。

目標2. 大学運営における意思決定過程への女性の参画を拡大し、女性教授職比率14.6%、管理職等の指導的地位に占める女性比率を18%以上とする。

1. 計画期間：平成30年4月1日～平成33年3月31日

2. 本学の課題

(1) 大学教員に占める女性の割合が低い。

(2) 大学運営における意思決定過程及び管理職等の指導的地位に占める女性割合が低い。

3. 目標と取組内容

〈取組内容〉

取組1. 女性教員の採用の拡大を図る。

平成30年4月～採用公募における女性教員の応募者を増やすために、育児・介護支援や研究環境整備の各種取組について、ホームページ等により広報を行うとともに、関連学会等を通じた公募情報の積極的な提供を図る。

平成30年4月～従来の女性限定公募の実績を検証し、特に女性教員が少ない分野・職階等に応じた新たなインセンティブの付与や資金の活用について検討する。

平成30年5月～教員選考過程において、性別に関わる固定観念や偏見が生じないよう部局長等を中心に意識啓発を図り、より公正な教員審査が可能となるよう具体的な方策に取り組む。

〈取組内容〉

取組1. 大学の意思決定機関等における女性の参画を図る。

平成30年4月～大学・部局執行部、教育研究評議会等の全学委員会における女性の参画を積極的に進める。

取組2. 女性リーダー育成のための研修・支援策を実施する。

平成30年4月～女性研究者の研究力向上やリーダーシップ養成のためのセミナーを開催する。

平成30年4月～女性リーダーを育成するために、研究プロジェクトへの研究費配分等の支援策を計画、実施する。

平成30年5月～女性リーダー育成に関する意識啓発を促すために、部局長等を対象としたヒアリングを実施する。

平成30年10月～ヒアリング結果を踏まえて男女共同参画や女性の登用に関する意識調査の実施、調査結果に基づく研修計画の策定及び実施、学内外の女性リーダーとの交流会開催等により、さらなる意識の啓発と資質向上を図る。

発行  
国立大学法人 琉球大学  
ジェンダー協働推進室  
University of the Ryukyus  
Gender Equality Promotion Office

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地  
TEL 098-895-8675 FAX 098-895-8760  
E-mail [gender@acs.u-ryukyu.ac.jp](mailto:gender@acs.u-ryukyu.ac.jp)  
<http://www.gender.jim.u-ryukyu.ac.jp/>

令和4年3月発行